

マネージメント情報

2010年11月



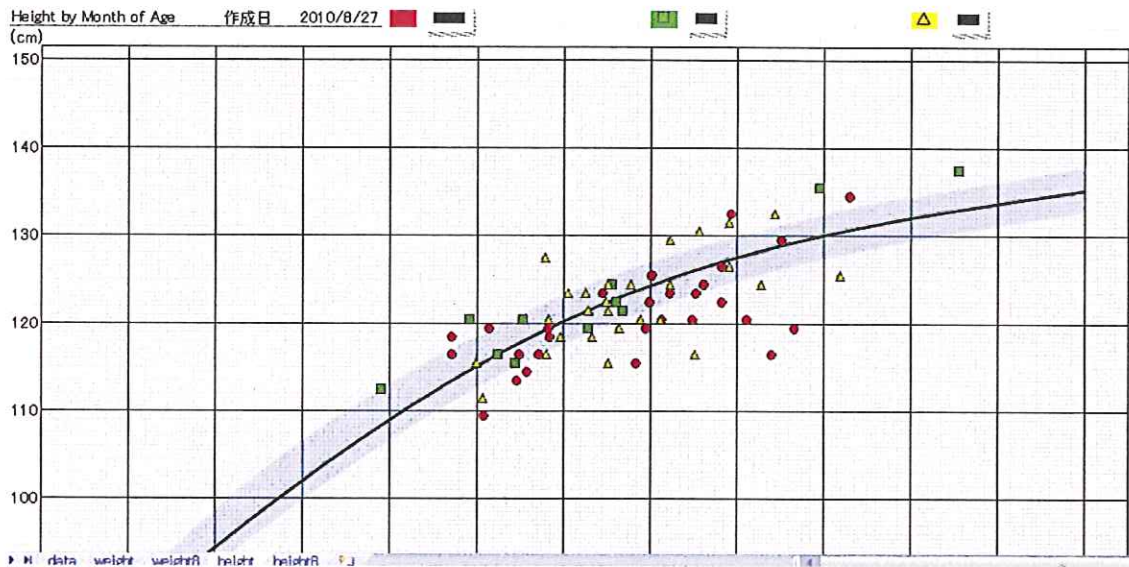
Total Herd Management Service

この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

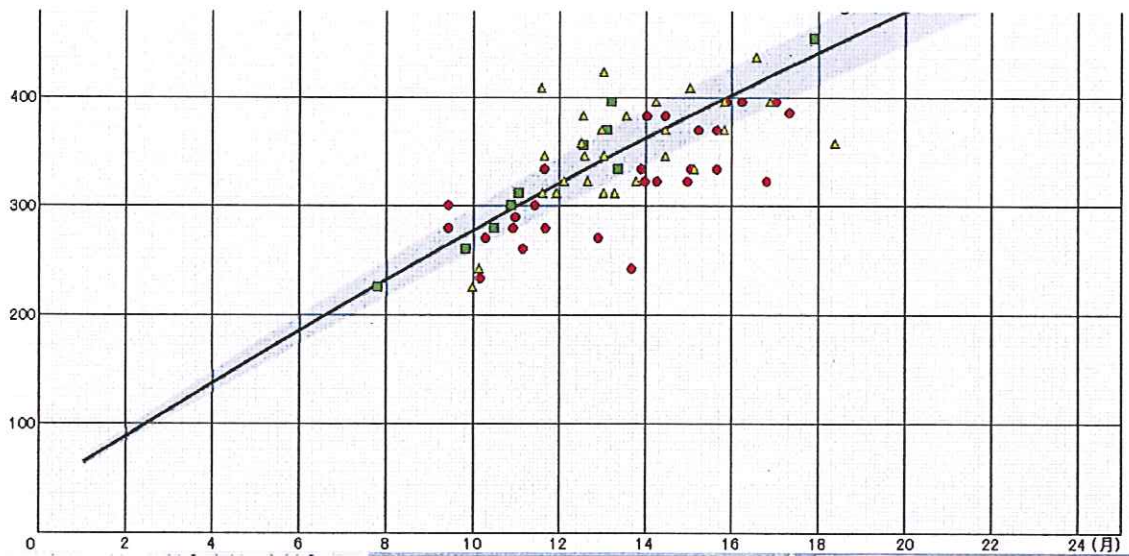
マネージメント情報 2010年 11月

1. 育成牛の体重を測ってみると

府県から預託牛を預かっている育成牧場で普及員さんが体重と体高を測定しました。このデータをもらって、当社のモニターソフトに3戸、農場別の結果が同時に分かるように入れてみました。多少導入時期がことなるものの、導入後はほぼ同じ飼養管理がなされるなかでこれだけの差が受け入れ農場ごとにあることがわかりました。

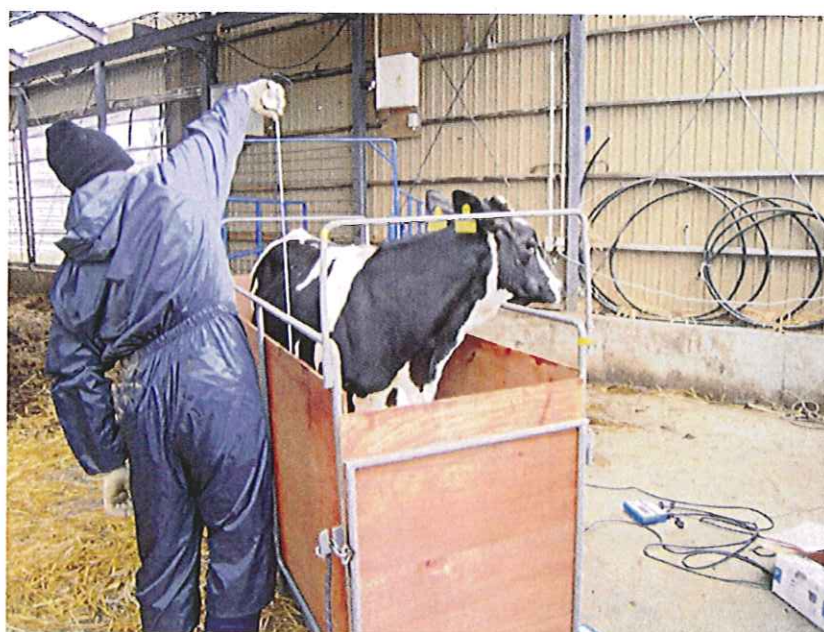


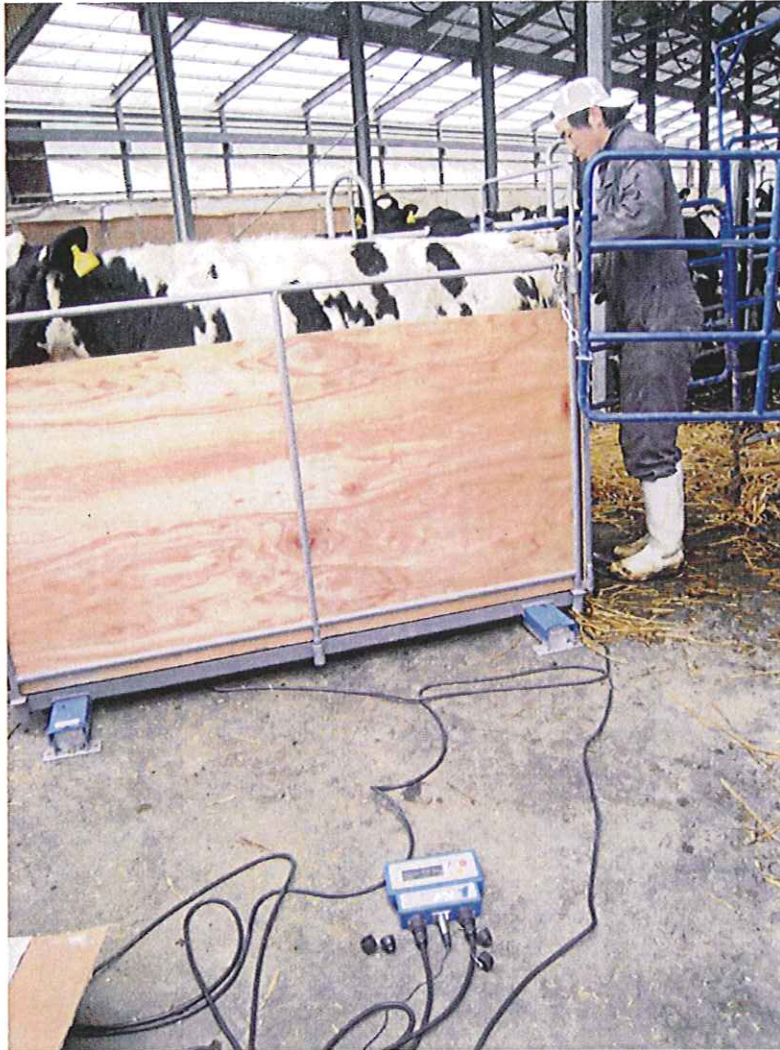
体高 c m



体重 kg

特に赤丸農場の成長がまったくよくなり、次に黄三角にむらがあります。緑四角農場はほぼ順調に成長しています。同じ飼養管理でも幼少期の管理によってその後の群管理による差が顕著になっています。下の写真は、別の農場での体重・体高測定の様子です。この方法はとても正確に測定できますが、ちょっと手間がかかるのでこれからは、より簡便に行う方法に切り替えます。一度育成牛の成長を調べてみてはどうでしょうか？いつでも、OKです。





2. 日本獣医師会における市民公開シンポジウム

獣医師の役割と食の安全にかかわる、市民公開講座が 2011 年 2 月に岐阜であります。私もなぜかよばれていて要旨を書きました。以下はその一部で食の安全の矛盾をあえて指摘しました。消費者も聞いているのでどのような反応になるのか分かりませんが、何を話してもよいと選定者から言われているので多少のリスクも含めこの部分に触れました。もし、何かまずいことがあれば今なら間に合いますのでご指摘ください。

酪農産業における規制と食の安全との矛盾

酪農家と獣医師に課せられる一つの大きな柱に法令遵守があります。酪農家も獣医師も法令によって承認された飼料や薬物を利用することが食の安全のための大前提になることを十分に承知しています。しかしながら欧米を中心に承認されながら、日本で承認されていない薬剤・資材・あるいは飼料がたくさんあることも事実でありそうしたものを利用して生産された乳製品がどんどん日本の市場に入り消費されている事実、日本の酪農家も獣医師も大きな矛盾を感じています。

例えば、乳房炎防除に大きな効果のあることが、海外で次々と発表されている、乳頭内シーラント剤は許可されていません。さらに、大腸菌性乳房炎予防に明確な効果のあるワクチンなども許可されていません。日本の酪農家が乳房炎、特に大腸菌性乳房炎によって大きな損害を被っているなか、海外でその問題はすでに過去のものになった感があります。また、乳量増加に大きな効果のある成長ホルモン剤（BST）の利用も許可されていません。BSTの定期的注射は、乳生産に大きな効果があり、特に泌乳後期の生産性を大きく伸ばしてその生産性を大きく伸ばします。さらには、米国などでは飼料に反芻獣以外からの血粉（豚や家禽由来血粉）を給与することが認められています。これらは高級なアミノ酸（特にリジン）源であり、その給与は乳牛の産乳性や健康に大きな効果のあることが分かっていますが、日本では完全規制されているのは周知のことです。さらには、ある種の抗生物質は、その出荷制限がまったくない状態で利用できるものが、日本では一定の出荷制限規制がかけられ、その牛乳は破棄しなければなりません。どちらが正しいのかという問題は別として、それらが欧米で利用され、その結果安い乳製品として日本に輸入され消費されています。これらのように日本の酪農家が海外と同じ土俵で勝負できていない事実があることを消費者に知ってもらう必要を感じています。日本において利用できない薬品や飼料を利用して生産された牛乳が乳製品として、輸入され消費されているという矛盾が賢明な消費者の行動によって、一日も早くなくなることを望んでいます。市民公開講座として、あえて触れさせてもらいました。

黒 崎

マネージメント情報

※冬季間の長靴の保管例

私が担当させていただいている農場の長靴の保管場所の様子を紹介します。
ポイントがいくつかあります。

1. 施設の仲(処理室)に入る前に長靴がある
2. 保温機能付…底にサーモスタット付のパネルヒーターがついています。
3. その上の波トタンが水切りの効果と空気層ができる事によってその分熱効率が上がる
4. 上にも断熱材を敷いて熱効率を上げている



そのような理由で、いつも長靴には①臭いにつかず、②ゴミが入らず、③常に乾燥していて、特にこれからの冬季間はありがたいのですが④暖かく、気持ち良く農場の長靴に履き替えることができます。

※TPPについて思うこと

環太平洋戦略的経済連携協定(TPP: Trans-Pacific Partnership)は2006年5月にシンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドの4ヶ国加盟で発効した経済連携協定。加盟国間の経済制度、即ち、サービス、人の移動、基準認証などにおける整合性を図り、貿易関税については例外品を認めない形の関税撤廃をめざしている。

環太平洋経済協定、環太平洋連携協定、環太平洋パートナーシップ協定とも呼ばれる。別名、自由貿易の優等生と例えられる。Wikipediaより抜粋

昨日仕事が終わった後お客さんとこの話題で小一時間お話をしました。

農業団体は、すぐ反対!!!という行動をするけれども(勿論それも必要)それと同時にただ「協定に参加することは壊滅的な影響を受けてしまう」というのではなく、日本と海外の農業(酪農)のおかれている状況の違いや、なぜ日本の農産物の価格が高コストになってしまうのか、消費者が声高に叫び、望むところの世界に類のない食の安心安全がどれほどの意味があり農業の高コスト体質に影響しているのか、etc…、その現実と矛盾について訴える良いチャンスなのにそのような行動は全くみられません。

同じ土俵での勝負なら何とでもなるでしょうが、CO2の排出の問題や酪農関係でいえば、日本では認められていない遺伝子組み換え飼料や動物由来の飼料、薬品(ワクチン・BST)を大手を振って使用している牛から生産される乳製品が輸入されるという矛盾。

その他にポジティブリストの義務づけや BSE 検査等……。様々な手枷足枷があります。世界の流れとしては自由化、協定の参加に向かっている事はみなさんとお話をしていても殆どの方が認めているところです。

みなさんいずれそうなるだろうと言います。

その中で、国家間の法律を含めた条件の違いを考えいつまでも経済界が勝手にいうところのお荷物的な立場に甘んじず、正々堂々とお天道様の下で議論し乗り切っていきたいモノだと思っています。

※ T@P セミナーの開催について

最終回第4回目の T@P セミナー(雇用セミナー)は来年 1/28(金) 10:00-15:00 の予定で別海町交流センター「ふらと」で開催することになりました。

雇用問題でお悩みの方はとても多くいらっしゃいます。一人で悩まずに某かのヒントがあるはずですので、是非参加して下さい。

-
- ・ あっという間に今年も残すところ一ヶ月と少し...になってしまいました。
昨年と比べて乳価のダウンが財布を直撃しています。15年ぶりの円高水準になっているにもかかわらず、今後の飼料の値上げや資材の高止まりが来年の経営にも大きく影響していくことが考えられます。
でも酪農はまだまだ宝物の宝庫だと信じています。いつもいう事ですが農場のまわりにはまだまだ気がつかないだけで、気づこうとしないだけで本当に沢山の宝物があります。その宝物を一緒に探していきたいと思っています。
 - ・ 私の診療車(ランクル80)の走行距離数の写真です。
H7年の8月~足かけ15年とちょっとで483,674Kmになりました。



目標は 500,000Km!!! 来年の春には大台に到達できそうです。
若い頃はモデルチェンジする度に新しい車を欲しくなりましたが。アメリカの獣医師が平気で30万キロ以上走ったトラックに乗って仕事をしている事を知り、私も大事に車に乗らなければ...と思い今日に至っています。
大台に乗ったら密かにお祝いしようと思っています。

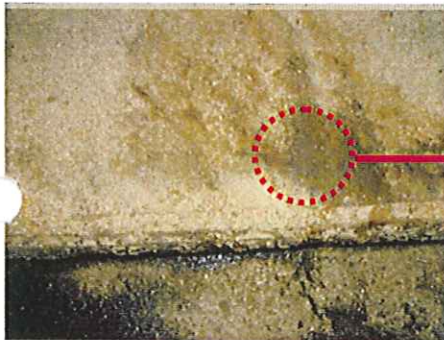
先月に引き続き「敷き料培養検査」！

敷き料の衛生管理について 考えなければいけない キュー！

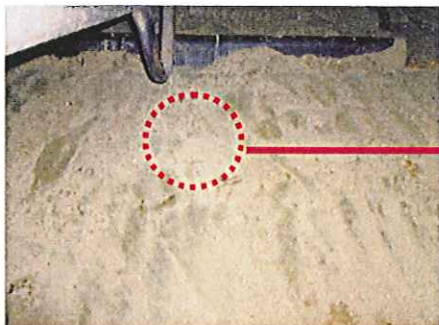


ケース1 フリーストール ペレットおが屑使用

敷き料管理：以前はベッド後方を清掃したらベッド前方からおが屑を引っ張ってきてベッド後方に敷いていた。現在は搾乳ごとにベッド後方のみを清掃し、新鮮なペレットおが屑を投入している。



ベッド後方の糞尿にまみれたおが屑を培養しました。ブドウ球菌、レンサ球菌など乳房炎原因菌となる菌が非常に多く出ていますが、大腸菌は不思議と検出されませんでした(10万ヶ/g以下)。



では、ベッドの前のほうの一見キレイでさらさらのおが屑はどうでしょうか？ブドウ球菌、レンサ球菌などが無数に検出されたのはもちろん、ベッド後方の汚れた部分からは出なかった大腸菌が検出されました(100万ヶ/g以上)。



新鮮なペレットおが屑を培養しました。病原性の高い有意菌は出ていません(全て10万ヶ/g以下)。つまりこの農場が現在おこなっているように、ベッドの後方のみ掃き掃除し、そこに新鮮なおが屑を搾乳ごとに撒く方法により、衛生的な敷き料マネージメントがおこなえているということです。

この農場では以前は搾乳ごとにベッド後方の汚れたところ除糞して、ベッド前方の方のおが屑を引っ張ってきてベッド後方に足し敷いていましたが、乳房炎が多発したことから現在の方法を変えたということです。

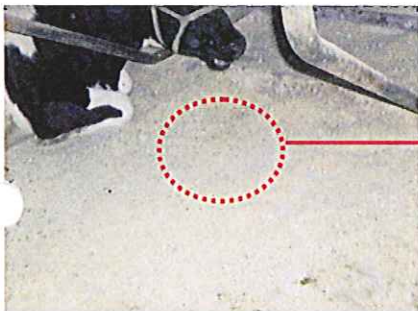
最初は菌数の非常に少ない衛生的なペレットおが屑ですが、ベッドで他の汚れと混ざり、牛の体温で培養されることにより、著しい数の乳房炎原因菌をふくむ敷き料に変身してしまうのがよく分かります。

ケース2 フリーストール 普通のおが屑使用

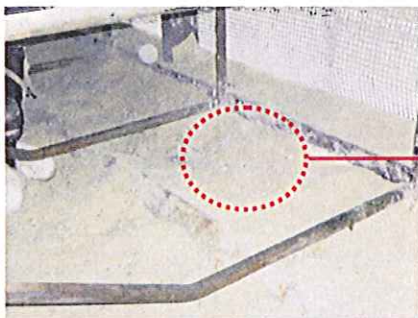
敷き料管理 : 週に1~2回ベッド前方に大量のおが屑を投入し、その後は搾乳ごとにベッド後方を除糞し、前のほうからおが屑を引っ張ってきては後方に足し敷いている。



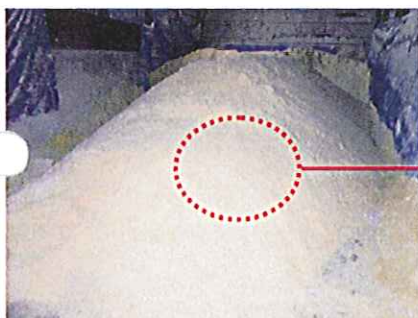
ベッド後方の糞尿にまみれたおが屑を培養しました。ブドウ球菌、レンサ球菌大腸菌など乳房炎原因菌となる菌が非常に多く出ています。かなり危険なレベルです。



では、ベッドの前のほうの一見キレイでさらさらのおが屑はどうでしょうか？大腸菌は検出されなかったですが、ブドウ球菌とレンサ球菌が無数に検出されました。



ちなみにこれはヘッドスペースにあるおが屑です。すでにこの時点で大量のレンサ球菌とブドウ球菌が混入しています。培養されるのに牛の体温はあまり関係ないようです。超危険！！！！



ではベッドの後の方だけキレイにして新鮮なおが屑をまきましましょう・・・
しかし新鮮なおが屑にも超危険レベルの大腸菌が！！！！

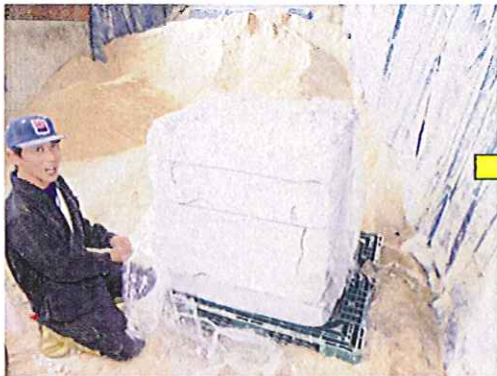


でもおが屑の保管庫で消石灰と混ぜれば大丈夫じゃないかって？これは消石灰を混ぜて数日したおが屑を培養したものです。菌数は元の通りに増えてます。石灰と混ぜても1~2日で元の菌数に増えてしまうそうです。

おが屑をベッドの前の方からひっぱてくればレンサ球菌が、新鮮なおが屑を入れれば大腸菌が・・・。敷き料による環境性乳房炎増加の危険が増すケースです。ただ単に除糞しておが屑を入れるだけでは安楽性向上と乳房炎リスクのアンバランスが生じます。

そんな「おが屑」と上手に付き合う方法

アイデア1 古紙との併用 ～細菌繁殖性の低い敷き料とのミックス～



古紙の敷き料 250kg ¥7000ほど



敷き料をベッドに排出したり、ミックスすることもできるバケット型の便利な機械



出来上がり おが屑と古紙を約1:1で混合したもの



赤く囲った部分がおが屑と古紙のミックス
黄で囲った部分が古紙のみを入れたベッド



培養検査結果

未使用	おが屑のみ	おが屑 + 古紙	古紙のみ
Coli	1000万	-	-
OS	1000万	-	-
CNS	-	-	-
他	-	-	-

ベッド前方	おが屑のみ	おが屑 + 古紙	古紙のみ
Coli	50万	-	-
OS	5000万	20万	100万
CNS	100万	50万	100万
他	多	-	-

ベッド後方	おが屑のみ	おが屑 + 古紙	古紙のみ
Coli	1000万	200万	-
OS	5000万	2000万	1000万
CNS	1000万	2000万	1000万
他	多	多	少

※ Coli : 大腸菌 OS: 環境性レンサ球菌 CNS: 環境性ブドウ球菌

古紙を併用または単独利用することで細菌の繁殖を抑制できていることが分かります。今後は古紙のもつデメリット(ベッドにくっつく、風で飛ぶなど)とコストについて検討していく必要があります。この農場では経産牛群全てにこのミックス敷き料を施用し、今のところ乳房炎が以前より減っているそうです(経過観察中)。

いわゆる「普通のおが屑」は有機敷き料のなかでも細菌繁殖性が高いほうなので、今回のように混ぜ合わすことでリスクを軽減できそうな細菌繁殖性の低い敷き料を検討する必要があります。

乳房炎防除と安楽性向上のためにベッドへ敷き料を逐次投入することは重要……
それ自体は正しいことですが、安楽性の向上とは裏腹に、敷き料によっては微生物のエサを供給することにもなるので、使用する敷き料の特性を理解してそれに応じた使い方を
する必要があるのであります。

また、少ない量の敷き料で済む安楽性の高い(クッション性があり、摩擦があり過ぎず、
滑りすぎない)ベッドの研究も必要だと感じました。

※ ベッドのクッション性については、新品時よりも5年後くらいにどうなるかを只今調査
中です、乞うご期待。

スペースがあまったので山下獣医師風に何か書こうかな……。

もうすぐ12月。12月末には当社の社員忘年会があります。

昨年より恒例(?)となった”仮装忘年会”。わたしは昨年はオバQに扮したものの、山下獣医の
「ロシアの同性愛者風の女装」と、森脇事務員の「座敷わらし」に完全に持っていかれました。

今年はどうしたものかと考えるといまから仕事が手につきません。

やはり時事ネタがいいのか、それともキワモノでいくか……さすがにはだかはずいぶん〜などと車を
運転しながら考えています。

だれか良いネタがあれば紹介してください。

11月の末に酪農学園大学にあって、学生相手に「大動物獣医師の魅力」と題してお話をしてこ
なくてはならなくなりました。どうやら産業動物に関わる獣医師が全国的に少なくなっているの
を農水省あたりが心配してのことらしいです。

本当に足りないの？ BSE検査がなくなったら……とか、農家自身がおこなう自家治療の規制緩
和をおこなったら獣医師はそんなにいないのでは……など素朴な疑問もあるのですが、それはい
いとして、当社のことを知ってもらって実習にきてもらって、それを機会に酪農とそれに関わる仕事の
魅力というものを知ってもらえればいいかなと考えています。

「獣医ドリトル」などというドラマが放映されているようです。

詳しくは分かりませんが、「獣医療はビジネスだ！」などといいながら高額な報酬を飼い主からまき
あげる、やたら腕の良いブラックジャックみたいな獣医師の話らしいですが。

だれですか！ 高額な報酬のくだりだけはどっかの会社(THOS)みたいだなんて言っているのは！